

# パコと魔法の絵本

2008(平成20)年7月18日鑑賞(東宝試写室)

★★★



監督・脚本=中島哲也/原作=後藤ひろひと『MIDSUMMER CAROL ガマ王子VSザリガニ魔人』/出演=役所広司/アヤカ・ウィルソン/妻夫木聡/劇団ひとり/國村隼/山内圭哉/上川隆也/土屋アンナ/小池栄子/加瀬亮/阿部サダヲ (東宝配給/2008年日本映画/105分)

……『下妻物語』(04年)、『嫌われ松子の一生』(06年)の中島哲也監督が、「複雑なものを面白く」から「シンプルなもの面白く」にチャレンジしたのがこれ！ たしかに、ストーリーはシンプルだが、面白さは……？ 「3DのフルCGキャラクターと実写の融合」は面白いし、色彩の美しさは抜群だが、やはり私には違和感が……。

## シンプルに、シンプルに！

『下妻物語』(04年)が4点(『シネマルーム4』323頁参照)、『嫌われ松子の一生』(06年)が5点(『シネマルーム10』360頁参照)と、私の評価が高いのが中島哲也監督。プレスシートによると、そんな中島哲也監督が「複雑な話を面白く見せるのは簡単なので、今回はとにかくシンプルなストーリーをいかに面白く見せていくかということにチャレンジしてみたかった」と述べているとおり、この映画は「シンプルに、シンプルに」がモットー！

たしかにそれは成功しており、夏休みの家族連れ向き映画としては最高かもしれないが、根がヒネくれている私は、やはり複雑な話を面白く見せてもらう方が好き。したがって、やはりこれだけシンプルな映画では少し物足りない、というのが正直なところ。

## 3DのフルCGキャラクターと実写の融合とは？

7月17日に観たティムール・ベクマンベトフ監督の『ウォンテッド』(08年)は、

「視覚効果」と「音響効果」の融合がはじめての試みだったが、中島哲也監督が採用した3DのフルCGキャラクターと実写の合成は、「日本の劇場長編映画では史上初」とのこと。

私には技術的なことは全然わからないが、映画の後半「劇中劇」として始まる『ガマ王子 VS ザリガニ魔人』の舞台では、一流俳優たちを3DのフルCGキャラクターに変身させたうえ、それを俳優のナマの演技と連動させていることはよくわかる。そこで問題は、いかに違和感なくそれを観客に見せるかだが、3DのフルCGキャラクターの面白さや色彩の美しさはあっても、やはり私には3DのフルCGキャラクターと実写の融合に違和感が……。

### 出演料は How much……？

役所広司や妻夫木聡、加瀬亮、上川隆也は、みんな1人だけで堂々と主役を張れる俳優たち。また、ケツタイな看護師役で登場する土屋アンナと小池栄子も、立派に主演女優クラス。

中島哲也監督はこの映画でそんなビッグネームをオールスターでキャスティングしたが、その素顔は全然観客に見せず、見せるのはイメージCGでつくられた姿だ。まさか、その分出演料が安くなるわけではないだろうから、これだけオールスターを集めると、一体その出演料は How much……？ そんな心配を私がしても仕方がないが、彼らの出演料をちゃんと支払うためには、少なくとも10億円以上の興行収入をあげることがこの映画の宿題……？

### パコは、あの「博士」と同じ……？

『博士の愛した数式』（06年）で寺尾聰が演じた博士は、80分しか記憶が持続しないという難病だったから、それに対応する人たちは大変（『シネマルーム10』177頁参照）。それに対して、この映画のタイトルとなっている9歳の少女パコ（アヤカ・ウィルソン）は、交通事故の後遺症で記憶が1日しかもたなくなっているらしいから、博士よりはマシ……？

そんなパコが入院しているのは、浅野医師（上川隆也）が経営している病院。そして、そこでパコが毎日読んでいる絵本が『ガマ王子 VS ザリガニ魔人』だ。パコにとってそれはくり返しではなく、毎日新しい試みだった。しかし、この病院に入院して

いる嫌われ者の大貫（役所広司）には、それは不思議な光景。そして、パコが大貫がいつも座っているベンチでその絵本を読もうとしたところから、ひと波乱が……。

## ケツタイなキャラを温かく

この映画に登場するケツタイなキャラは、冒頭に紹介したとおりの面々。彼らは基本的にたまたま病院で一緒になった入院患者というだけの人間関係だ。しかし、看護師雅美（小池栄子）の夫浩一（加瀬亮）は大貫の甥だから、大貫が死亡すれば社長の地位を引き継ぐ立場。天然ボケの浩一はそんなことは全く考えていないが、お金に弱い雅美はそのためなら何でもやるというタイプ。

「お前が私を知ってるってだけで腹が立つ。気安く私の名前を呼ぶな。お前の頭の中になんかいたくないんだ！」といつも怒鳴っている大貫はみんなの嫌われ者だが、そんな大貫が、突然今年の夏のクリスマスイベントで『ガン王子 VS ザリガニ魔人』の劇をやると言い始めたのは、一体なぜ……？ それが、シンプルなこの映画の核心。

## 劇中劇の後に訪れる結末は？

この映画の後半は、おとぎの国における手に汗を握る（？）ガン王子とザリガニ魔人との対決を軸とした壮大なファンタジーだから、お子サマはきっと大喜びするはず。2日後に観た宮崎駿監督の『崖の上のポニョ』（08年）よりこちらの方が迫力がある（？）から、お子サマもかなり興奮するのでは……？

劇中劇の面白さは、『恋におちたシェイクスピア』（98年）や『王の男』（05年）（『シネマルーム12』312頁参照）や『カミュなんて知らない』（05年）（『シネマルーム10』164頁参照）、『ウインターソング』（05年）（『シネマルーム17』469頁参照）、『落語娘』（07年）などで私がいつも強調しているが、それは、3DのフルCGキャラクターと実写を融合させて演じられる劇中劇でも同じ。この劇中劇を演ずるのは、大貫をはじめとする入院患者と病院関係者たちのオールスターだが、その観客は誰……？

それは当然パコだが、上演終了後、病状が相当悪化していた大貫は遂に倒れ、ジ・エンド。誰もがそう思ったはずだが、中島哲也監督はその後意外な展開を用意しているから要注意。さて、劇中劇の終了後に訪れるアッと驚く結末とは……？

2008(平成20)年7月22日記